

- 問1 弥生時代における「ムラ同士の争い」は、その後の日本の社会構造にどのような変化をもたらしましたか。当時の社会の流れとして最も適切な説明を選びなさい。（2024年 北海道公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 争いを鎮めるために、各集落が完全に独立したまま交流を断つ鎖国のような状態になった | 2. 争いを通じて周辺のムラが統合され、クニと呼ばれる強力な政治的まとまりが形成された | 3. すべての人が平等に食料を分配する仕組みが作られ、身分の差が完全になくなった | 4. 争いを避けるために人々が再び移動生活に戻り、定住する集落が一時的に消滅した |
|---|---|--|--|
- 問2 古代における農具の改良について、木製農具の先に鉄の刃先を取り付けるようになった目的と、その結果として生じた変化について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。（2016年 富山県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---------------------------------------|--|
| 1. すべての農具を鉄のみで製造することで、木材資源の消費を抑え森林を保護した | 2. 石包丁の使用を継続しつつ、木製農具の強度を補うことで穂首刈りの効率を上げた | 3. 土を深く耕すことを可能にして農業生産力を高めるため、収穫量が増大した | 4. 灌漑用水を確保するために、大規模な土木工事専用の石造りの道具を開発した |
|---|--|---------------------------------------|--|
- 問3 3世紀に邪馬台国の卑弥呼が、中国の魏へ使節を送り「親魏倭王」の称号や銅鏡などを得た背景について、当時の日本の状況を踏まえた説明として正しいものはどれですか。（2021年 茨城県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 中国が日本に対して朝貢を強制し、従わない場合は貿易を禁止すると通告してきたため | 2. 日本の優れた絹織物を中国全土に普及させ、大陸での市場独占権を皇帝に認めてもらうため | 3. 国内の諸勢力が争う中で、中国という大国の後盾を得ることで自らの権威を高める必要があったため | 4. 魏の軍勢力を直接日本に呼び寄せ、反対勢力を武力で一掃して一気に領土を拡大しようとしたため |
|--|--|--|---|
- 問4 弥生時代の3世紀、邪馬台国の卑弥呼が中国の「魏」に対して使いを送った目的と、その結果として当時の国際情勢から読み取れる背景として最も適切なものはどれか。（2017年 東京都公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 全国的な徴税制度である大宝律令を確立させるために、中国から法制度の専門家を招いて政治改革を推進した。 | 2. 日宋貿易を円滑に進めるために、大輪田泊のような港湾施設を整備して中国との経済的な結びつきを重視した。 | 3. 中国の皇帝から倭の王としての正当性を認められることで、国内の諸勢力に対する支配力を強化しようとした。 | 4. 隋の皇帝に対して対等な立場での外交を求め、小野妹子を派遣して「日出づる処の天子」という国書を届けさせた。 |
|---|---|---|---|
- 問5 弥生時代、ムラ同士の争いに備え、集落の周囲に深い濠（ほり）や柵を巡らせた集落が見られるようになりました。このような特徴を持つ集落の名称として正しいものを、次の中から選びなさい。（2022年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|---------|---------|---------|
| 1. 門前町 | 2. 竪穴住居 | 3. 環濠集落 | 4. 高床倉庫 |
|--------|---------|---------|---------|
- 問6 表面に当時の生活の様子や動植物、流水文などの模様が描かれ、上部に「鈕（ちゅう）」と呼ばれる持ち手のような部分がついている、弥生時代の祭祀用青銅器の名称は何か。（2026年 新潟県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 埴輪 | 2. 銅戈 | 3. 銅鐸 | 4. 銅矛 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問7 弥生時代には青銅器と鉄器がほぼ同時に日本列島へ伝わりました。それぞれの金属器が果たした役割の違いについて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2020年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 鉄器は定期市での取引を円滑にするために使われ、青銅器はイスラム教の礼拝の道具として使われた | 2. 青銅器は加工のしやすさを活かして農具や工具として普及し、鉄器は主に祭りの道具として使われた | 3. 青銅器は前方後円墳に埋葬するための副葬品として作られ、鉄器は神社の建築のために使われた | 4. 鉄器は鋭さや硬さを活かして農具や武器などの実用に供され、青銅器は主に祭りの道具として使われた |
|--|--|--|---|
- 問8 大陸から稲作の技術が伝わったことで、人々の生活や集落の様子は大きく変化しました。この時期の集落において、収穫した食料を管理・保存するために設けられた特徴的な施設として適切な名称を選びなさい。（2021年 岡山県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| 1. 前方後円墳 | 2. 環濠集落 | 3. 竪穴住居 | 4. 高床倉庫 |
|----------|---------|---------|---------|
- 問9 「漢書」地理志や「魏志」倭人伝などの中国の歴史書には、倭の女王である卑弥呼や、それ以前の倭の小国の王が、中国の皇帝に使節を送ったことが記されています。このような古代の日中外交において、日本の支配者が中国の皇帝から称号を授かろうとした主な目的として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 宮崎県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 中国の皇帝と対等な立場で軍事同盟を結び、高句麗や新羅を共同で攻撃するための約束を取り付けるため。 | 2. 中国国内でのキリスト教の布教を許可してもらい、宗教的な指導者としての地位を確立するため。 | 3. 中国の強力な武力や権威を背景に、日本国内の他の勢力に対して自らの支配の正当性を示すため。 | 4. 中国の皇帝から直接的に領土を譲り受け、日本列島を中国の行政区画の一部として統治するため。 |
|---|---|---|---|
- 問10 弥生時代に大陸から伝わった技術や文化が、当時の社会に与えた影響を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2022年 鹿児島県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 青銅器が実用的な農具として普及したことで、開墾が進み全国的な統一国家が誕生した。 | 2. 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。 | 3. 狩猟や採集がより効率的になり、人々は移動を繰り返しながら竪穴住居に住んだ。 | 4. 巨大な前方後円墳を築くための高い土木技術が伝わり、各地に大規模な古墳が作られた。 |
|---|---|--|---|
- 問11 中国の歴史書『魏志倭人伝』の中で、邪馬台国の女王が即位した経緯や背景について説明した一節があります。その内容として最も適切な説明を次から選びなさい。（2026年 岐阜県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. それまでの世襲制を廃止し、中国の皇帝による直接的な任命によって、最も外交能力の高い女子を王とした。 | 2. 大規模な干ばつや飢饉が続いたため、農業の神に仕える特別な血筋を持つ女子を王とした。 | 3. もともと男子を王としていたが、国の中が乱れて数年も互いに攻め合ったため、一人の女子を王とした。 | 4. 仏教の教えを広めることで民衆の心を安定させるため、優れた徳を持つ女子が大陸から招かれて王となった。 |
|--|--|--|--|
- 問12 1世紀に倭の奴国の王が中国の後漢へ使節を送り、光武帝から金印を授かった背景として、当時の小国の王たちの目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2023年 大阪府公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|---------------------------------------|
| 1. 中国からの軍事支援を直接受け、近隣諸国を武力で一気に統一しようと考えたため。 | 2. 遣隋使や遣唐使のように、進んだ律令制度を学び取り、日本独自の憲法を制定するため。 | 3. 中国の皇帝から地位を認められることで、自国の権威を高め、周囲の国々に対して有利に立つため。 | 4. 仏教などの新しい宗教を中国から導入し、国民の精神的な団結を図るため。 |
|---|---|--|---------------------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 争いを通じて周辺のムラが統合され、クニと呼ばれる強力な政治的まとまりが形成された	土地や水をめぐる争いは、勝利した集落が敗北した集落を吸収・統合するプロセスでもありました。これにより、複数の「ムラ」が統合されて「クニ」へと大規模化し、その中心に王のような強力な指導者が現れることで、初期の国家形成へとつながっていきました。
問2	答え 3 土を深く耕すことを可能にして農業生産力を高めるため、収穫量が増大した	鉄の刃先を装着することで、従来の木製のみの農具では難しかった硬い土壌を深く掘り起こす（深耕）ことが可能になりました。これにより土壌の養分が有効に活用され、農業生産力が大幅に向上しました。石包丁から鉄鎌への変化なども含め、鉄の普及は収穫量の増大と社会の余剰生産物の蓄積に直結しました。
問3	答え 3 国内の諸勢力が争う中で、中国という大国の後ろ盾を得ることで自らの権威を高める必要があったため	当時の日本（倭）は、多くの小国が対立し合う「倭国大乱」を経て、女王卑弥呼による連合体である邪馬台国が形成された時期でした。依然として国内には対立勢力が存在していたため、卑弥呼は圧倒的な文化と武力を持つ魏の皇帝から「倭王」として認められることで、自らの統治能力と地位を盤石にしようと考えました。
問4	答え 3 中国の皇帝から倭の王としての正当性を認められることで、国内の諸勢力に対する支配力を強化しようとした。	当時の東アジアでは、中国の皇帝に朝貢して臣下としての称号を受けることで、周辺諸国の王が自らの地位を保証してもらう「冊封（さくほう）」という仕組みがありました。多くの小国が対立していた弥生時代の日本（倭）において、卑弥呼が強力な「魏」の皇帝から「親魏倭王」の称号を得たことは、他の勢力に対して自らの権威を示す強力な武器となりました。聖徳太子が隋に対して対等な外交を試みたのは後の7世紀の出来事であり、卑弥呼の時代はまだ中国を中心とした秩序を利用して国内統治を安定させようとしていた段階にあたります。
問5	答え 3 環濠集落	稲作が広まった弥生時代には、土地や水をめぐる争い（戦争）が頻繁に起こるようになりました。集落を守るために、周囲に深い「濠（ほり）」を掘り、その内側に「柵」を立てるといった防御設備を持つ「環濠集落」が各地で作られました。
問6	答え 3 銅鐸	銅鐸は、その形状から「鐘」のような役割を持っていたと推測されています。初期のものは音を鳴らすために小規模でしたが、時代が下るにつれて大型化し、村の祭りで見せるための宝物としての性格を強めていきました。
問7	答え 4 鉄器は鋭さや硬さを活かして農具や武器などの実用に供され、青銅器は主に祭りの道具として使われた	鉄は青銅よりも硬くて丈夫であるため、木製農具の先を補強する工具や、鋭利な刃物としての武器といった実用的な道具に用いられました。一方で、青銅器は独特の光沢を持つことから権威の象徴や祭りにおける神聖な道具としての性格を強め、鉄器と青銅器で「実用」と「儀礼」という役割の分担がなされました。
問8	答え 4 高床倉庫	弥生時代に稲作が普及すると、人々は安定して食料を得られるようになり、定住生活が進みました。これに伴い、余剰となった収穫物を保存する専用の施設が必要となり、高床倉庫が作られるようになりました。住居として使われた地面を掘り下げた構造の「竪穴住居」とは、その役割と構造が明確に区別されています。
問9	答え 3 中国の強力な武力や権威を背景に、日本国内の他の勢力に対して自らの支配の正当性を示すため。	当時の日本（倭）は多くの小国が並立しており、各勢力の首長は自らの支配力を誇示し、国内を安定させる必要がありました。先進文化を持つ中国（漢や魏など）の皇帝から「親魏倭王」のような称号や金印を授かることは、周辺勢力に対して「自分こそが正当な統治者である」と主張するための強力な裏付けとなりました。
問10	答え 2 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。	稲作の開始は、単なる食生活の変化にとどまらず、社会構造に劇的な変化をもたらしました。収穫した米を蓄えることで余剰生産物が生まれ、それを管理・所有する層が現れたことで、貧富の差や身分の違い（階級）が生じました。その結果、小国を治める王のような強力な指導者が登場し、中国の歴史書にある「100余りの国」のような政治的なまとまりが形成される要因となりました。なお、青銅器は主に祭祀用であり、実用的な農具は鉄器が担いました。
問11	答え 3 もともと男子を王としていたが、国の中が乱れて数年も互いに攻め合ったため、一人の女子を王とした。	史料には「その国、本また男子を以て王となし、住まること七、八十年。倭国乱れ、相攻伐すること歴年、乃ち共に一女子を立てて王となす」という記述があります。これは、2世紀後半に起こったとされる「倭国大乱」という戦乱状態を収拾するために、呪術的な権威を持つ卑弥呼を王に立てることで、諸国の連合体としての安定を図ったことを示しています。
問12	答え 3 中国の皇帝から地位を認められることで、自国の権威を高め、周囲の国々に対して有利に立つため。	当時の日本（倭）は100余りの小国に分かれて対立しており、奴国のような小国の王は、強大な勢力を持つ中国（後漢）の皇帝に朝貢（貢物を届けること）して「臣下」としての形をとることで、自らの支配の正当性や地位を国際的に裏付けてもらおうとしました。福岡県の志賀島で見つかった金印は、このような当時の国際関係（冊封体制）の実態を象徴する資料です。